

土の細粒分含有率試験方法（案）	NPO 住宅地盤品質協会推奨（案） T002-2011
<p>1. 適用範囲</p> <p>この基準は JIS A 1223 に規定されているもので、高有機質土以外の土で、かつ、0.075mm ふるいを通過した土の細粒分含有率を求める試験方法を推奨、紹介する。</p> <p>地盤の液状化の可能性を判定する指標の一つとして、細粒分含有率 F_c（粒径 0.075mm 以下の土粒子の含有率）が用いられる。</p>	
<p>2. 土の細粒分含有率の定義</p> <p>土の乾燥質量に対して金属製網ふるい 75 μ m 通過分の乾燥質量が占める割合を、百分率で表したものを。</p>	
<p>3. 試験器具</p> <p>A) ふるい：ふるいは、JIS Z 8801-1 に規定する金属製網ふるいで、呼び寸法 2mm、425 μ m、75 μ m のもの。耐熱性のあるガラスまたは磁製のもので、試験中に質量の変化を生じないもの。ただし、金属製の容器は用いてはならない。</p> <p>B) はかり：はかりは、最小読取値が 0.01g まではかることができるもの。</p> <p>C) 含水比測定器具：含水比測定器具は、住品協規準（案）T001-2011「電子レンジを用いた土の含水比試験方法」に準ずる。</p>	
<p>4. 試料</p> <p>試料の量は、最大粒径が 2mm の場合 200g を目安とする。住品協基準（案）T001-2010 に規定する「電子レンジを用いた土の含水比試験方法」により試験後の乾燥試料を用いる。</p>	
<p>5. 試験方法</p> <p>・試験準備</p> <p>A) 試料の乾燥質量 ms (g)をはかる。</p> <p>B) 試料を完全に水浸させ、2 時間以上放置する。</p> <p>C) 2mm、425 μ m 及び 75 μ m ふるいを重ねた組ふるいを準備する。</p> <p>・試料のふるい分け</p> <p>A) 水浸試料を十分に攪拌し、直ちに組ふるいに注ぐ。</p> <p>B) 組ふるいに残留した試料の全量を再度水浸させる。</p> <p>C) A)、B)の操作を、攪拌直後の水が無色透明になるまで繰り返す。</p> <p>D) 組ふるいに残留した試料の全量を、住品協規準（案）T001-2011 に規定する電子レンジを用いた加熱方法で、一定質量になるまで乾燥し、その質量 m_{0s} (g)をはかる。</p>	
<p>6. 計算</p> <p>細粒分含有率は、次式によって算出する。</p> $F_c = \frac{ms - m_{0s}}{ms} \times 100 \qquad ms = \frac{m}{1 + \frac{w}{100}}$ <p>ここに F_c : 細粒分含有率(%) m : 試料の質量(g) ms : 試料の乾燥質量(g) m_{0s} : 組ふるいに残留した乾燥質量(g) w : 試料の含水比(%)</p>	
<p>7. 報告</p> <p>A) 細粒分含有率</p> <p>注記：試料に 2mm ふるいに残留する礫質土が含まれる場合は、その質量百分率も報告することが望ましい。</p>	